

山田町消防操法競技会 機敏な動作で訓練の成果を発揮

4月28日、分団対抗の町消防団消防操法競技会が山田消防署で開かれました。日常の訓練成果を発表する場として実施されているもので、町内の全13分団から170人が参加。各分団とも機敏な動作で訓練の成果を存分に発揮していました。競技の結果、ポンプ車操法の部では第5分団が優勝、第2位は第8分団、第3位に3分団が入り、小型ポンプ操法の部では第4分団が優勝、第2位に第1分団、第3位に第11分団が入りました。各部門で優勝した分団は、県消防協会宮古地区支部大会に出場予定です。



地元で働く人を講師に 山田高校で「やまだ未来会議」

4月26日、山田高等学校(伊藤理俊^{まさとし}校長、生徒73人)で「やまだ未来会議2024」が開かれました。これは、地元にある多様な職業への理解を深め、地域が抱える課題の解決方法を考えることを目的に開催されたもので、講師には実際に町内で事業を起こし働く人たちが出席。生徒らは講師が話す人口減少による影響や地域課題などの内容を聞き、町の将来に向け熱心に対応策を考えていました。山崎巧^{たくみ}さん(2年)は「山田町の未来を今以上に考えながら行動していきたい」と地元への思いを話しました。

山田中でオリンピック開催 仲間と協力し力いっぱい駆け回る

5月11日、山田中学校(八幡一臣^{かずおみ}校長、生徒279人)で、オリンピック(体育祭)が開かれました。赤・黄・緑色の3つの組団に分かれ、長縄跳びや綱取りなどを競い合うこのオリンピックでは、力いっぱい駆け回り、仲間と協力しながら奮闘する生徒の姿が見られ、応援に駆け付けた保護者から大きな声援が寄せられました。組団ごとの応援合戦では、工夫を凝らした応援に会場は大盛り上がり。そして大一番の全員リレーでは、追い越し、追い越されの白熱したレースが繰り広げられ会場は熱気に包まれていました。



織笠地区の大川ハツさん 規則正しい食生活が元気の源

5月15日に大川ハツさん(織笠)が100歳の誕生日を迎えられました。大川さんは大沢生まれの大沢育ち。高等女学校卒業後、実家の農業で働いていましたが、戦時中の勤労奉仕で動員され、神奈川県横浜市で働いた経験もあるそうです。自宅を東日本大震災で失いましたが、現在は、2人の子どもと4人の孫、5人のひ孫たちに恵まれ織笠で生活をしています。日々の楽しみは、野球や相撲などのスポーツ番組を見ること。長寿の秘訣は「好き嫌いせずに食べることですね」と規則正しい食生活が元気の源です。



町のわだい

今月の題字 竹内 いっしん 壺心さん（山田小6年）

「船越春のむらまつり」に3,500人 大勢の人がさまざまな催し楽しむ

5月3日、船越公園と鯨と海の科学館では「船越春のむらまつり」が開催され、町内外から訪れた親子連れら約3,500人でにぎわいました。会場では、人気キャラクターなどのステージショーや各種体験コーナーが設けられ、大勢の人がさまざまな催しを楽しんでいました。中でも人気を集めたのは、動物との触れ合いコーナー。このコーナーでは、ウサギやヤギと触れ合う事ができるほか、ポニーに乗馬できるとあって、子どもたちは大はしゃぎ。「かわいい」と何度も声を上げ、動物たちの体をなでたり乗馬したりと動物との触れ合いを楽しみ姿が見られました。



町長旗争奪スポ少野球大会 打撃に守備にと光るプレーを見せる

4月20日、第36回町長旗争奪スポーツ少年野球大会が町総合運動公園野球場で開かれ、町内の野球スポーツ少年団（豊間根、山田の各野球スポーツ少年団）が出場しました。選手たちは、日ごろから鍛えた練習の成果を発揮し、声を掛け合いながら打撃に守備にと随所に光るプレーを見せていました。試合は両チームとも譲らず接戦を繰り広げましたが、7対3のスコアでオール豊間根野球スポーツ少年団が競り勝ち優勝。最優秀選手賞に同団の山崎織さんが選ばれ、優秀選手賞に山田野球スポーツ少年団の鈴木想大さんが選ばれました。



浦和レッズ杯少年サッカー大会 全力プレーで熱戦繰り広げる

5月4日と5日の2日間にかけて、山田サッカー協会（関清貴会長）が主催する「浦和レッズ杯ハートフル少年サッカー大会」が総合運動公園サッカー場で開かれました。4回目の開催となった本大会は、平成30年に被災地の子どもたちの心のケアを目的に始まったもので、近隣市町村などから6チームが出場。子どもたちは、全力でプレーし熱い戦いを繰り広げ、ゴールが決まるたび応援席から大きな歓声が上がっていました。試合の結果、FC釜石が優勝、本町チームのFC山田ヴェルエー二は準優勝の活躍を見せていました。

